



環境公共 通信

“地域づくりの新しいかたち” 環境公共



第14号 平成24年7月
発行／環境公共推進会議事務局
〒030-8570 青森市長島1-1-1
青森県農林水産部農村整備課内
TEL 017(734)9545 FAX 017(734)8153

■最近の話題

環境公共学会 の世永会長が野外学習会に参加

去る6月21日、つがる市立瑞穂小学校4年生51名を対象とした野外学習会「田んぼの水はどこから来るの？」が開催されました。

本学習会は、水土里ネット西津軽が主催したもので、農業用水と水源林の関わりをはじめ、農業農村整備、農業水利施設を維持管理している水土里ネットの役割などへの理解を深めることを目的に行われた農業水利施設見学会です。



出発の様子

紙芝居を使った 環境公共 のPR

同校で行われた出発式では、「環境公共学会」の世永会長が「水循環と環境公共のおはなし」と題した紙芝居で、山～川～海を流れる水循環の仕組みと、健全な水循環システムの再生・保全を支える「環境公共」の取組について説明しました。

また、「環境公共」の取組に当たっては、①公共工事をする際の話し合いへの参加（地域力の再生）②農林漁業者が相互に協力（農・林・水の連携）③虫や魚が棲める施設の整備（環境の保全再生）といった3つの約束事を決めており、みんなもこれらの約束事を守って“きれいな水”に育まれた豊かな自然や美しい景観づくりに参加してみませんかと語りかけ、紙芝居を終了しました。



紙芝居で「環境公共」を説明する世永会長

水源林の働きを学習（in つがる富士見湖パーク）

紙芝居終了後、生徒たちはバスに乗り込み、「岩木川統合頭首工」「津軽ダム展望所」「白神山地ビジターセンター」を巡り、つがる富士見湖パークへと向かいました。



水源林の働きの説明を聞く生徒たち

ここでは、県の担当者から“地球温暖化防止”や“水源涵養機能”などの水源林の働きや、そうした働きを十分引き出すには、森林自らの力に加えて、植林や間伐などといった森林の成長を助ける人の力も必要であるとの説明がありました。説明を聞いた生徒からは“地球を大切にしたい”とか“水がいろんな所に循環していることが分かった”といった感想がありました。

この後、一行は最後の見学先である「平野揚排水機場」を見学し、学校で終了式を行いました。

■「環境公共」事例紹介

しょうがやち
菖蒲谷地地区（三戸郡田子町）

～ 未来へ引き継ぐ水源の森づくり ～

1 地区の概要

田子町菖蒲谷地地区には、772haに及ぶ町有林があり、地区内には「ドコノ森水源地」と「柘山水源地」という2つの貴重な水源地がありますが、近年、森林の荒廃から土砂の流出による被害が発生するなど、森林機能が低下してきました。

そこで、水源林の機能回復を目的に、水源森林再生対策事業（H23～27）による森林整備の取組を開始し、平成24年3月に地区住民や簡易水道組合、森林組合などを構成員とした「ドコノ森地区環境公共推進協議会」を立ち上げました。



地区の全景

2 水源林の保全活動

去る5月8日、協議会発足の記念行事として、ドコノ森町有林地で植樹祭を開催しました。協議会をはじめ田子町長や清水頭小学校の大黒森みどりの少年団など約50人が参加し、緑豊かな自然とのふれあいを満喫しました。



町長と団員児童によるシラカバの植樹



植樹祭に参加した大黒森みどりの少年団員

当日は、少年団代表から“植樹を通じて緑のダムである地域の水源林を保全していきたい”との力強い宣言後、森林組合の職員から植樹方法の説明を受けた参加者は、スコップを手に郷土樹種であるナナカマドとシラカバの苗木約40本を植樹しました。

植樹終了後には、“きれいな水”を育む水源林が地域の貴重な財産として将来にわたって確実に引き継がれていくことを願いながら、クリの木製の記念標柱を背に記念撮影を行いました。

3 今後の取組

本年度は、溪流への土砂の流出防止を図るため、県産間伐材を利用した治山ダムの設置や、森林が本来持っている保水力を回復するため、間伐による林内の光環境の改善に取り組む予定です。

また、秋には、協議会と地元小学生による「森の観察会」の開催も予定しているほか、今回植樹した地区での育林活動を通じて、森林を守っていくことの大切さを伝えていくこととしています。



植樹後の現地